

為替週間展望 = ドル円は上昇基調で推移か

[3月23日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		3月16日～3月19日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	107.29	109.55(19)	105.15(16)	108.69	+1.07
ユーロ・ドル	1.1067	1.1237(16)	1.0802(18)	1.0928	-0.0179

=====

国内株・金利 / 米国株・金利				
	終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	16,552.83	-878.22	日本10年債利回り	0.103 +0.049
ダウ平均株価	19,898.92	-3286.70	米10年債利回り	1.192 +0.231

=====

< 来週の主要経済統計等 >

- 23日 カナダ1月卸売売上高
- 24日 日本1月景気動向指数
米2月新築住宅販売件数
- 25日 NZ2月貿易収支
独3月ifo景況感指数
英2月消費者物価指数、英2月生産者物価指数、英2月小売物価指数
米MBA住宅ローン申請件数
米2月耐久財受注
米1月住宅価格指数
- 26日 英2月小売売上高
英中銀 (BOE) 政策金利
米第4四半期国内総生産 (GDP) 確報値、米新規失業保険申請件数
- 27日 米2月個人所得・個人支出
米3月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】リスク回避の円高が警戒されるものの、ドルも買われており、ドル円は比較的底堅い動きを見せている。日米など各国の株価動向や米長期金利の動きを眺めながら、目先は101～106円台のレンジで荒れた動きとなりそうとした。

【FRBは1.00%の緊急利下げ】

週明けの16日の日本時間の朝、米連邦準備制度理事会 (FRB) は緊急の米連邦公開市場委員会 (FOMC) を開催して1.00%の大幅利下げを決定した。政策金利は0.00～0.25%となり、ゼロ金利政策となる。米連邦準備制度理事会 (FRB) は3日に0.50%の緊急利下げをしたばかりだが、NYダウが連日で1000ドルを越すような乱高下を続けており、市場の不安心理が高まっており、一段の利下げに踏み切った。

利下げに加えて量的緩和策 (QE) も復活させる。米国債を少なくとも5000億ドル、住宅ローン担保証券 (MBS) を2000億ドル購入する。当初、3月17～18日のFOMCを15日の日曜日に前倒して開催して利下げと量的緩和拡大を決定する異例の事態となった。

FRBによる大幅利下げにも関わらず、16日の東京時間に米国株価指数先物が時間外取引で急落して、NYダウ先物はサーキットブレーカーが発動して1000ドル超の下げとなった。その晩のNY市場ではNYダウは2997ドル安と過去最大の下げ幅と

なった。F R Bの緊急利下げがかえって不安心理を増幅させたようだ。

なお、16日に日銀、F R B、欧州中央銀行（E C B）、英中銀（B O E）など6つの中央銀行は、ドル資金を供給する枠組みを拡充する。民間銀行にドルを貸し出す際の金利を引き下げ、これまで1週間だけだった貸出期間に3か月を加える。

17日の米国株式市場では、F R Bが企業の資金繰り支援のため、コマーシャルペーパー（C P）の買い入れを表明したことや米政府が現金給付を含む1兆ドル規模の大規模な景気対策などを計画していると報じられたことなどから買いが広がった。N Yダウは1048ドル高となった。18日には1338ドル安となるなど、荒れた動きを続けながら下値を探る動きとなっている。

米国株だけでなく、各国の株価も大きく値を崩しており、下げ止まりの気配が感じられない。こうした中、リスク回避で買われやすいはずの金や米国債まで売られている（米国債売り＝利回り上昇）。米10年物国債利回りは19日の東京時間に一時1.27%前後まで上昇している。ドルキャッシュの手当てのために流動資産が売られてドル買いの動きとなっている。

F R Bによる緊急利下げを受けて、ドル円は16日の朝方、105円台後半まで下落した。その後、日銀が16日に臨時的金融政策決定会合を開催すると報じられたことで、円高進行は一服して一時107円台半ばまで上昇した。16日の日銀金融政策決定会合では、E T Fの買い入れ増額などを決定している。その後、ドル円は軟調な動きとなって、欧州株の下落を受けて105円台前半まで円高に振れた。その後は振幅を続けながらドル買いの動きとなって、19日にドル円は109円台まで上昇している。

コロナショックの影響でドル需要が増しており、ドル円も堅調な動きを見せている。リスク回避の円買いが出て極端な円高には傾きにくいとみられる。ドル円は荒れた動きを続けながら上昇基調で推移しそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、105.00～112.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、24日に日本1月景気動向指数、米2月新築住宅販売件数、25日にN Z 2月貿易収支、米M B A住宅ローン申請件数、米2月耐久財受注、米1月住宅価格指数、26日に米第4四半期国内総生産（G D P）確報値、米新規失業保険申請件数、27日に米2月個人所得・個人支出、米3月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

【ドルの堅調さなどからユーロドルは軟調な動きか】

米連邦準備制度理事会（F R B）以外にも各国中銀が利下げに動いている。16日にN Z準備銀行（R B N Z）は0.75%の利下げ、韓国中銀は0.50%の利下げ、17日にトルコ中銀は1.00%の利下げ、19日にブラジル中銀は0.50%の利下げ、豪中銀（R B A）は0.25%の利下げに動いている。そうした中、19日に欧州中央銀行（E C B）は7500億ユーロの緊急量的緩和策を発表した。こうした発表でも各国の株価は下げ止まりを見せていない。

欧州での新型コロナウイルスの感染拡大を背景に欧州株は下げを続けており、ユーロドルも売りに押されている。イタリアでの感染者数や死亡者数の拡大が続いており、他国でも国境の一時的閉鎖などの措置が取られている。先行き不透明感が根強く、欧州株安やユーロ安が続いている。また、ドル需要の高まりもユーロドルの下げにつながっている。ドルの堅調さもあって、ユーロドルは引き続き軟調な推移となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0600～1.1100ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、23日にカナダ1月卸売売上高、25日にN Z 2月貿易収支、独3月I F O景況感指数、英2月消費者物価指数、英2月生産者物価指数、英2月小売物価指数、26日に英2月小売売上高、英中銀（B O E）政策金利などがある。

※投資や売買については御自身の判断でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。